

# 元気っ子通信

## No.58

平成 27 年 2 月 9 日発行

お正月の声を聞いたばかりなのに、もう 2 月、3 学期は早いです。  
この 1 年で子ども達は個人差はあるものの、それぞれに成長しました。

恐い事件が続きます。大学生の殺人事件など、外に目を向けると「イスラム国」の人質事件など、人としてのふるまいとはかけ離れた行動に言葉もありません。こんな事件をあとしき考えずにやってしまうことに驚きます。自分を愛してくれている人たちの悲しみを考えずに、自分がしたいことをして達成感を味わうことだけがその人の生き方なら、社会生活はできませんね。こんな人を見聞きして一番に思うのは子どものころにどんな育ちをしてきたのかということです。

きっと、「家族」という軸がしっかり立っていなかったのかなと思います。本人を取り巻く環境（人的、物的全て）が大きく影響しているのは確かです。大人の思慮のなさから子どもを普通に愛し育てるといふごく当たり前のことができていなかったのだと思われまふ。子ども時代の育ちに無理があったのでしょうか。

本来の子供の姿である外で走り回って大声を出して夢中に遊んでいればその生活の中で、友だちとのかかわりの中から心の痛み、悲しみ、優しさ、怒りなどの感情を共有し、理解できるようになるものです。

ゲームやテレビばかり、塾やけいこごとにおわれる毎日をすごしているのであればこれはちょっと考えものです。学童に来ている子たちがよく家でゲームをしていることを耳にしますが、もっと親子で話したり遊んだりしてかかわる時間をもってほしいと願います。



子どもには子どもの特権である「仲間と夢中に遊ぶ」時間が絶対に必要なのです。  
これがなくては大人への階段をふみはずしてしまいます。  
「普通に育てる」「普通に生きる」ことを大切にしましょう。

以 上